

ヨハネの手紙 第三ノート

2023 版

Dr. Thomas L. Constable

紹介

著者

著者は明らかに使徒ヨハネであり、第二ヨハネと同様に、ここ(1節)でも自分を「長老」と名乗っています。^[1] これら 2 つの書簡の内容、文体、用語の印象的な類似性は、ヨハネが両方の書簡を書いたという古代の言い伝えを裏付けています。

元の受信者

第三ヨハネのガイオがどこに住んでいたかに関する内部的証拠がないため、ほとんどの解釈者は彼をローマのアジア属州にいたとし、そこが第一と第二ヨハネの目的地である可能性が最も高いと考えています。彼の名前はギリシャ世界では一般的なものでした。新約聖書で言及されている他のガイオには、パウロがコリントでバプテスマを受けた男性(第一コリント 1:14; おそらくコリントでのパウロの主人と同じ、ローマ 16:23)、^[2] パウロの第 3 回目の宣教旅行に同伴したマケドニア人の(使徒 19:29) およびデルベのガイオが含まれます(使徒 20:4)。しかし、私たちが知る限り、これらのガイオの誰も、ヨハネが書いた時代にはアジア州に住んでいませんでした。^[3]

「第三ヨハネ9章には第二ヨハネへの暗示がある可能性があり、もしそうなら、両方の手紙は同じ教会の個人(一人は忠実な女性、もう一人は忠実な男性)に宛てられたこととなります。」^[4]

執筆の日付と場所

ヨハネ第三の執筆時期を確定するプロセスも演繹的でした。おそらくヨハネは、第一と第二ヨハネを書いたのとほぼ同時期に、西暦90年から95年にかけて、エペソからこの手紙を書いたと思われます。

特徴

第三ヨハネは、おそらく新約聖書の中で最も個人的な手紙です。もちろん、ほとんどの手紙はもともと教会やキリスト教徒のグループに送られました。第一ヨハネと第二ヨハネはどちらもそのような系統です。牧会書簡は、特定の個人、すなわちテモテとテトスに宛てて送られま

したが、明らかにそれより広範囲に配布されることも念頭に置いて書かれました。ピレモンへの手紙はまた、パウロがその手紙の受取人が自分の家に集まった教会にそれを伝えることを意図していたという証拠を示しています。第三ヨハネも同様に普遍的な価値を持っており、初期キリスト教徒はそれがキリスト教会全体に利益をもたらすことを認識していました。ただし、この手紙の内容は非常に個人的なものです。

「…第三ヨハネは、新約聖書の他の場所(第二ヨハネを含む)で見られる書簡体の慣習からの独立性を示しており、西暦1世紀の世俗的な手紙の書き方のパターンに最も近いものとなっています。…第三ヨハネでは、これに健康を願う挨拶が含まれています;そして宛先の安否の知らせに対する喜びの表現;別の手紙の約束を含む手紙の本文;そして最後に共通の友人たちへ、そして彼らからの挨拶が書かれています(パピルス参照)。[\[5\]](#)

「この文書には、時折書かれる(特別な状況に対処するために書かれた手紙の)魅力がすべてあり、権威のあるキリスト教徒が友好的な信徒にどのように話しかけるかが示されています。」[\[6\]](#)

「第三ヨハネの文言から、これが部分的にはデメテリオへの賞賛の手紙であることが示唆されます(第三ヨハネ12節)。彼は明らかに第二ヨハネ(おそらく第一ヨハネも)とともにこの手紙の配達人であるようです。」[\[7\]](#)

「この書簡は、新約聖書の中で1世紀の教会の一面を最も鮮明に示しています。」[\[8\]](#)

概要

- I. 紹介 1節
- II. 愛を持って真実を守る 2-12節
 - A. ガイオの愛を讃える 2-4節
 - B. 真実を宣言する人々を支援するよう励ます 5-10節
 - C. デメテリオの支援を続けるよう強く勧める 11-12節
- III. 結論 13-14節

メッセージ

第三ヨハネと第二ヨハネは、同じ問題の二つの側面、つまり真理とキリスト教の愛との関係を扱っています。第二ヨハネで著者は真理の重要性を強調しました。第三ヨハネで彼は愛の大切さを強調しました。第二ヨハネは、アイデアをより扱っているという点で、より一般的であると言えます。第三ヨハネはより個人的なもので、例や具体的な事例をより扱っています。

「第二の手紙で、彼は真理と眞理への愛からの逸脱を理由に異端を非難しています。第三の手紙では、使徒は神の民の間の分裂と分断を非難しています。」^[9]

この手紙のメッセージを私なら次のように要約します。兄弟愛は、眞理にとどまることの産物です。ヨハネは、眞理にとどまること(光の中を歩くこと)の産物であるクリスチャンの愛がどのように振る舞うかを明確にするために、2つの具体的な例を挙げました。

最初の例はポジティブなもので、ガイオの賞賛に値する行動に関連しています。ガイオは自分の必要や欲望よりも他人の必要を優先しました。これがクリスチャンの愛のあるべき姿です。それはイエス・キリストがどのように行動されたかであり、私たちにどのように行動するように指示されたかです(ピリピ2:7)。ガイオは、彼の町を訪れた福音宣教者たちをもてなし、経済的援助を提供しました(5節)。

ヨハネは3つの理由からこの習慣を承認しました。まず、そのような行動は神にふさわしいものです(6節)。つまり、それは神の行いと調和しているのです。神は自分の利益よりも神の利益を優先する人々に与えてくださる方です(マタイ6:33)。第二に、このような行動が必要なのは、これらの人々が不信者からの助けを得られないからです(7節)。私たちは救われていない人が神の働きを支援することを期待すべきではありません。もし彼らが福音を信じていないのなら、なぜその福音の普及を支持したいと思うのでしょうか? 第三に、そのような行動は、支持者を説教者のパートナーにします(8節)。私たちは、他の人たちを物質的に支援することで、彼らの仕事に実際に参加することができます。宣教師はよくこの点を指摘します。

兄弟愛の2番目の例は否定的なもので、ディオテレペスの軽蔑的な行動が関係しています。ディオテレペスは、他人の必要よりも自分の個人的な欲望と必要を優先しました。これはクリスチャンの愛においてどのように振る舞ってはいけないか、ということを示しています。プライドと自己中心がディオテレペスの行動の問題の根本にあります(9節)。これは、イエス・キリストご自身の行為、そしてイエスが弟子たちに教えた行いとは真逆です。

この態度の成果は3つありました(10節)。第一に、ディオテレペスの言葉は嘘であったこと。彼は自分を高めるために他人に対して偽の告発を行っていました。第二に、彼の動機は自己中心的であったこと。これらの行為が彼自身の安全を脅かしていたために、彼はもてなしや支援を差し控えていました。第三に、彼の他者に対する行動は抑圧的であったこと。彼は他人に服従させるのではなく、脅迫を用いて自分の意志に従うよう強制しました。彼は兄弟たちの間の一致を促進するどころか、教会の集会の交わりから他の人を追い出そうとさえしました(10節)。

ヨハネはまた、眞理に調和して行動するようにと勧めました(11節)。彼はこの勧めに従う理由を2つ挙げました。第一に、善行を行うのは神の子どもたちの本性です(罪を犯さない; 第一ヨハネ 3:7, 9; 5:18 参照)。第二に、悪を行う人は神を「見たことがない」という証拠を示し

ます。そのような人は不信者としても信者としても暗闇の中にいるのです(第一ヨハネ1:6参照)。

最後に、ヨハネは真理に調和して行動する機会を与えました(12節)。この聖句は、愛を理論的に議論するだけでなく、具体的な状況で愛を実践することの重要性を強調しています。

この短い手紙には、現代の教会にとって重要なメッセージが含まれています：

第一に、物理的、物質的な方法で兄弟たちへの愛を示さないなら、私たちは真理に忠実に留まっているとは言えません。私たちは経験的に真実を知らなくても、知的には真実を知っているかもしれません。私たちは真実を握るだけでなく、真実が私たちを握っていないけません。それは私たちを支配する影響力を持っているに違いありません。

第二に、私たちの行いは私たちの本当の態度を明らかにします。自分の態度が愛情深いのか利己的なのかは、自分の感情を調べるのではなく、自分の行動を調べることでわかります。私たちの行動は愛を示しているのでしょうか、それとも利己心を示しているのでしょうか？これは非常に実用的で役立つテストであり、定期的に自分自身に問いかける必要があります。[\[10\]](#)

「私たちにとって第三ヨハネの主に興味深いことは、その神学ではなく、教会の政体の歴史について書かれていることにあります。著者の記録から私たちに教会の当時の生活、そこで起こっていた多くの出来事、聖霊がどのように働いていたか、そして教会の現状聖霊がどのように働いているか、そして人間の間で現在存在する不十分さと緊迫を垣間見ることができます。」[\[11\]](#)

説明

I. 紹介 1節

ヨハネは、この短い新約聖書の手紙の受取人に自分自身を名乗って挨拶をし、その後の内容の調子を整えました。

1節 第二ヨハネと同様に、使徒は自分自身を「長老」と認めました。[\[12\]](#)このガイオ(ラテン語「カイオ」)が誰だったのか、正確にはわかっていません。彼は当時、一般的な名前でした。初期の教会の伝統では、彼をパウロの生まれ故郷のマケドニア人の同伴者(使徒19:29)、デルベ出身のパウロの同伴者(使徒20:4)、またはコリントで教会を主催したパウロのバプテスマを受けたコリント人と同一視されませんでした(ローマ16:23、第一コリント1:14)。

「長老がこの手紙を書いた相手であるガイオは、パウロと関係があったその名を持つ人物のいずれとも同一視されるべきではないというのが一般的な意見です。」[\[13\]](#)

その理由は、ガイオという名前が、今日の英語でのジョンの名前と同じように、当時のギリシャ語では非常に一般的な名前だったからです。[\[14\]](#) このガイオはおそらくアジア州のどこかに住んでいたと思われます。彼は明らかにヨハネが兄弟クリスチャンとして愛した人物でした。

愛と真理の両方に対するヨハネの関心は、この手紙からも明らかです(第二ヨハネ参照)。「本当に」とは、まことに、神の真理に一致するという意味です。ヨハネもガイオも使徒たちが教えたとおりの真理を信じていました。

II. 愛を持って真実を守る 2-12節

愛する者よという言葉は、この短い手紙の本文の3つの箇所のをそれぞれを紹介しています。

A. ガイオの愛を讃える 2-4節

2節 ガイオの霊的状态は良好でした。彼は光の中を歩いていました(第一ヨハネ1:7参照)。ヨハネは、あらゆる面で繁栄し、霊的な健康と同時に肉体的な健康も得られるようにと祈りました。

「彼は間違いなくイエスからこのことを学んだに違いありません。イエスの人々の身体的悩みに対する関心は、四福音書すべてで証明されています。」[\[15\]](#)

「恵みは健康を改善し、健康は恵みを用います。」[\[16\]](#)

私たちは、他者の霊的活力だけでなく、他者の身体的および一般的な安全にも関心を寄せるべきです。しかし、私たちの祈りがしばしば明らかにしているように、通常、クリスチャンは後者よりも前者に注意を払う傾向があります。

この聖句を、神はすべての信者が霊的にだけでなく肉体的にも経済的にも繁栄することを望んでいるという見方が裏付けられていると見る人もいます。しかし、ヨハネの一連の著作には、これがヨハネの意図したものであることを示すものは他に何もなく、聖書の他の場所ではこの見解を裏付けるものはほとんどありません。[\[17\]](#)

3節 ヨハネは他の信者から、ガイオが真理の人であると聞いていました。つまり、彼のライフスタイルは真実と一致していました。彼は「真実のうちに歩いていた」のです。

「私たちが真実を持っていることの最良の証拠は、私たちが真実の中を歩いていることです。」^[18]

4節 ガイオが身体的に、霊的に(彼の改宗^[19])あるいは比喩的にヨハネの子どもだったのかどうかはわかりません。この言葉の比喩的な使用法は、新約聖書で最も一般的なものです。この場合、ガイオはヨハネの弟子か、あるいは単に若い信者だった可能性があります(第二ヨハネ4章、第一テモテ1:2参照)。同様に、ガイオの「子どもたち」は、おそらくガイオの個人的な霊的ケアの下にあった人々であったと言えます。^[20]

B. 真実を宣言する人々を支援するよう励ます 5-10節

ヨハネはガイオの兄弟たちへの愛を称賛し(第一ヨハネ2:3-9、3:14-18、23、4:7、11、20-21、第二ヨハネ5章参照)、この美德の実践を続けるよう励ましました。

5節 ガイオが世話をした信仰の兄弟姉妹たちを彼が愛したのと同じように、ヨハネは、“愛する者”と呼んでいたことからわかるようにガイオを愛していました。

「初期キリスト教徒コミュニティのもてなしに対する深い関心は、ユダヤ人のルーツと当時のギリシャ・ローマ文化の両方から受け継がれています。」^[21]

ヨハネのガイオに対する愛情は、彼が「愛する者よ」という言葉を繰り返し使っていることから明らかです(2節参照)。ガイオは、彼の行動が神の真理と一致しているという意味で、忠実に行動していました(第二ヨハネ1-2参照)。

いくつかのギリシャ語文献にあるように、ガイオは兄弟たちや見知らぬ人たちに愛を示していた可能性があります。その一方で、おそらく彼は兄弟たち、特に自分にとって見知らぬ兄弟たちに愛を示したのでしょう。おそらくガイオは、両方の種類の見知らぬ人に対して愛を示したのでしょう(ヘブル人への手紙13:2参照)。

6節 ここで言う“教会”はおそらくエペソにあるヨハネの教会のことを示しているのでしょう。「You will do well to」は「お願いします」という意味の慣用句に変換されます。ヨハネはガイオに、訪問者に対する賞賛に値する扱いを続けるよう促しました。神は彼らのご自分のもとに滞在している間だけでなく、後に彼らが出発するときにも、神にふさわしい方法で、つまり十分な備えを持たせて彼らを送り出すことによってそのようにすることができました(使徒15:3、20:38、21:5;ローマ15:24;第一コリント16:6;テトス3:13参照)。

「[神にふさわしい仕方で]という言葉は、彼らが使者として、僕として神にふさわしい方法でという意味です。」^[22]

「この点は今日にも当てはまります。キリスト教の牧師や宣教師は、必要なものを与えるように神がご自分の民に奨励してくださるという信仰の中で生きています。物惜しみをするよりも惜しみなく寛大に与える方がいいと言うことです。」[\[23\]](#)

「いつでもどこでも、確固たる信念と寛大な心を兼ね備えた人物は教会で高く評価されるべきです。」[\[24\]](#)

7節 この状況全体の中の“よそから来た人たち”とは、旅をする説教者のことです。キリストの名において(「御名のために」)外に出ていくことは、その御名ゆえに大きな名誉でした。これは、イエス・キリストの名前が言及されていない唯一の新約聖書です。

「この『名前』は本質的にキリスト教信条の総体です(第一コリント12:3、ローマ10:9 参照)。」[\[25\]](#)

「ユダヤ人にとって『御名』とは常にエホバを意味していたように、今やユダヤ人であろうと異邦人であろうとキリスト教徒にとって『御名』とは他の何よりも尊く栄光に満ちたお方を意味しています。」[\[26\]](#)

私は、ヨハネがこの手紙を傍受する可能性のあるキリスト教の潜在的な敵によってこの手紙が破壊されるのを防ぐために、その名前をイエス・キリストへのアトバシュ(隠語)として使用した可能性は低いと思います。ヨハネは、この手紙が安全な使者を介してガイオに確実に届くようにしたと推測できます。

初期のキリスト教の説教者は通常、他の信者から物質的な支援を受けていました(使徒20:35、第一コリント9:14、第二テサロニケ3:7-9参照)、あるいは自分自身を支えていました(使徒18:3参照)。彼らは不信者に資金を求めたり受け取ったりしませんでした(エズラ記8:22、マタイ 10:8、第二コリント 12:14、第一テサロニケ 2:9 参照)。[\[27\]](#)「異邦人」とは不信者の総称でした。異邦人のほとんどは異教徒でした。

「契約の箱が荒野を通るとき、それはイスラエルの祭司たちの肩に担がれました。彼らはそれを車に乗せることさえできませんでした。神は祭司たちがそれを運ぶように仰せられました。そして今日の神の祭司たちは神の信者のことを指します。すべての信者は祭司であり、今日、主イエス・キリストをこの世界にもたらすことが私たちの使命なのです。」[\[28\]](#)

「宗教的、哲学的カルトからの巡回[旅行]する街頭説教師[原文のまま]、貪欲に[欲張って]聴衆から資金を募るような該当説教師が多数存在しました。」[\[29\]](#)

「現代においてさえ、福音の説教者が神の無償の救いを提供する人々に資金を募るのには、何か見苦しいところがあります。」[\[30\]](#)

「これは、改心していない人が、その贈り物が救いは買うものではないことを理解している限り、その人から自発的な贈り物をいただくことを神の僕たちが拒否すべきだという意味ではありません。その場合でも、私たちは非常に慎重でなければなりません。ソドム王の申し出は自発的なものでしたが、アブラハムはそれを拒否しました。(創世記 14:17-24)」[\[31\]](#)

未信者や一部の信者からの贈り物には条件が付いている場合があります、何か帰ってくることを期待されています。

8節 異教徒はクリスチャンの説教師や教師を支援していなかったため、クリスチャンからのサポートはより一層必要でした。「私たちはこのような人々を受け入れるべき

「私が最初に牧師を務めた教会で執事が私に言ったように、『食べ物を得る場所で給料を払うのです！』教会員が十分の一献金や献金を世界中に送っても、自分の地元の教会の奉仕活動への支援を怠るのは反聖書的です。)

「ウィリアム・ケアリーは、自分の宣教事業を鉱山の探検に例えて、このように言いました。『あなたがロープを握ってくれるならば、私は降ります。』」[\[32\]](#)

経済的かつ親切な援助を与えることにより、与える者は受け手の仕事(第二ヨハネ10-11参照)、そして真理(福音)のパートナー(「同労者」となります。

G. キャンベル モーガンは、ホスピタリティがこの手紙の主題であると信じていました。[\[33\]](#)

「その[第二の手紙]の中で、ヨハネは偽のもてなしについて警告しました。ここでヨハネは真のもてなしを命じています。」[\[34\]](#)

ヨハネが再び真実を強調していることに注目してください。福音を宣べ伝えることは真理を宣べ伝えることです。

9節 ガイオの良い例は、ディオトレペスの悪い例と並んでより際立っています。ディオトレペスは珍しい名前です、ゼウスによって養われたという

意味です。[\[35\]](#) ヨハネは、ガイオとこの手紙の他のすべての読者の責任を明確にし、この間違いを犯した兄弟に関する指示を与えるために、ディオトレペスを問題に取り上げました。

ガイオとディオトレペスの両方が参加していた教会への手紙は、私たちが知る限り、第一か第二ヨハネでない限り現存していません。フィンドレーとレンスキーはそれが第二ヨハネだと信じていました。[\[36\]](#) 「彼ら」とはその教会の信者を指します。ヨハネはディオトレペスの動機がプライドであることを暴露しました（「彼らの中でかしらになりたがっている」）。ディオトレペスは、自分を高めるためにヨハネが言ったことや書いたことを拒否しました。ヨハネは、ディオトレペスが誤った教義を持っているとは言っていませんし、ほめかしていません。彼は自分の不適切なプライドと野心を非難しただけでした（マタイ20:27参照）。[\[37\]](#) ヨハネは第三ヨハネの中で異端の問題を直接取り上げたことはありません。

「…ディオトレペスのような人は、教会内で主イエス・キリストだけに属する地位を奪ったという罪を犯しています」[\[38\]](#)

「…クリスチャンは、時にクリスチャンコミュニティの中で他人から苦しむことがあります。」[\[39\]](#)

「キリスト教の集会での役割を自己満足的手段として利用したいという誘惑は、今もなお神の僕たち全員が抵抗しなければならない現実的な誘惑です。」[\[40\]](#)

「約40年前、私はある宗派の新聞にディオトレペスに関する記事を書きました。編集者は、25人の執事が新聞紙上で個人に対して攻撃されたことへの憤りを示すために新聞を止めたと言いました。」[\[41\]](#)

10節 使徒ヨハネは、その会衆を訪問する可能性があるときはいつも、公の場でディオトレペスの罪深い行為を指摘するだろうと約束し、警告しました。[\[42\]](#) 具体的には、ディオトレペスは自分を高めるためにヨハネを虚偽で非難しました（ギリシャ語 phlyareo、愚かまたは無意味に話しました）。それより悪いことに、第二に、彼はガイオのように、訪問する兄弟たちをもてなしませんでした。おそらく彼はそれらを自分自身への脅威とみなしたのでしょう。第三に、彼は教会の他の人々を脅迫し、これらの人々を歓迎するのをやめさせ、さらには教会から追放しました。一部の作家がディオトレペスが彼の町の貴族の一員だったと想像したのも不思議ではありません。[\[43\]](#)

「ディオトレペスが有罪となったのは、イエス・キリストの人柄や性質に関する健全な教えに違反したからではなく、彼の『生涯』が福音の真理に矛盾していたからです。」[\[44\]](#)

「動詞 ekballei は、再び現在形（文字通り「彼は追い出す」）で表現されますが、後に知られるように、教会からの正式な破門を意味しているわけではありません。マタイ18:17、ルカ6:22、ヨハネ9:34-35、第一コリント5:2章を参照。その一方で、ディオトレペスはすでに「追放」の任務を自分自身に横柄に[横取り]しており、単にそうしたいだけでなく…実際に人々を会衆から追い出しているように見えます（彼が兄弟たちを歓迎するのを拒否したため）。」[\[45\]](#)

明らかに、ガイオはディオトレペスの願いに屈しませんでした。これは彼が強い性格とおそらく教会内での影響力を持っていたことを示しています。ヨハネはこの手紙でガイオへの支持とディオトレペスへの反対を表明しました。

C. デメテリオの事例に対し支援を続けるよう強く勧める 11-12節

11節 ヨハネの激励は疑いなく、ディオトレペスに抵抗するガイオの決意を強めました。「神の」と「神を見た」は、ヨハネが最初の手紙の中で使った用語です（第一ヨハネ3:6、10;4:1-4、6-7参照）。「善を行う者は神から出た者である」とは、神を源とする行動を示す人のことを言います。[\[46\]](#)

「私たちが示すライフスタイルは、私たちが神を見てきた範囲を直接反映しています。私たちが神を完全に見ていたなら、私たちは決して罪を犯さないでしょう。私たちの罪は、神を誤った見方で見ていることの結果なのです。したがって、聖書は次のように勧めています。私たちがキリストを見るようになること（第二コリント3:18;4:16-18;ヘブル12:2、3参照）。なぜなら、私たちがキリストを完全に見る日が、私たちがキリストのようになる日だからです（第一ヨハネ 3:2,3参照）。」[\[47\]](#)

神の子供たちは、神が彼らの父であり、神の性質を共有しているため、「良い行い」をします（第一ヨハネ3:9;5:18）。「悪を行う人」はクリスチャンかもしれませんが、神を見ていない（神と親しい交わりを持っていない）ため、悪を行うときはサタンのように振る舞っています。ヨハネはディオトレペスが救われていないとして非難しているのではなく、救われていない人間のように振る舞っているとして非難していました。神をよく知っている（神のうちに住んでいる）人は、悪ではなく善を行います（第一ヨハネ 3:6; 5:18）。

「この文脈における『彼は神から出た』という表現は、『彼はクリスチャンである』という意味ではありません。むしろ、『彼は敬虔な人だ』、ある

いは『彼は神の人だ』という意味です。この文脈では、それは交わりの表現です。」[\[48\]](#)

「ヨハネの三通の手紙は主に、神との、福音の敵との、そして第三ヨハネの場合は真理を宣べ伝える人々との交わりの問題に関係しています。」[\[49\]](#)

12章 ヨハネは、ガイオに愛を実践する機会を与え、それによってディオトレペスの愛の欠如を戒めるために、デメトリオにもてなしの愛を示すようガイオに勧めました。デメトリオはヨハネからのこの手紙をガイオに運んだのかもしれませんが。[\[50\]](#)あるいは、彼は後にガイオを訪ねたのかもしれませんが。彼は物議を醸す巡回説教者の一人だったのかもしれませんが。[\[51\]](#)彼の名前は、ガイオの名前と同様、ヨハネの時代には一般的なものでした。[\[52\]](#)

ヨハネはデメトリオの価値について3つの賞賛を示しました。彼は彼を知るすべての人の間で良い評判があり、彼の性格と行動は真実と調和しており、ヨハネは個人的にデメトリオを知っており、彼の保証人でした。

「ガイオと同じように、デメトリオも『真実の中を歩いて』いました。彼の人生は彼が告白したことそのものでした。パウロの表現で表すなら、彼は御霊の実を明らかにしました。また、ヨハネの表現によると、彼は愛の人生を送っていました。」[\[53\]](#)

「神の客観的な真理は、すべての信者の歩みの神聖な規則であり、本当に真理のうちを歩む人に良い証しを与えます。」[\[54\]](#)

天国に行って、このデメトリオがエペソでパウロに多大な迷惑をかけた人物と同一人物であるかどうかを確認するのは興味深いことでしょう(使徒19:24)。何人かの評論家は彼がそうだと推測しました。[\[55\]](#)しかし、その可能性は低いでしょう。なぜなら、当時その地域に住んでいたデメトリオ(農耕の女神デメテルに属する)という名前の男性が間違いなくたくさんいたからです。さらに、パウロは50年代初頭にエペソで奉仕しましたが、ヨハネはおそらく90年代にこの手紙を書いたと思われます。

III. 結論 13-14節

ヨハネは、この手紙の簡潔さとガイオをすぐに訪問したいという彼の希望を説明するために、彼と同じように、おそらくやや短く結論を述べました。この結論は第二ヨハネの結論と非常によく似ています(12-13節、ヨハネ20:30参照)。

信者を表すのに友達という言葉が使われるのは珍しいことです。ヨハネは明らかに、信者の間に存在する友情の基本的な性質に注目を集めたかったようです。友情の基本的なレベルにおいてさえ、クリスチャンはお互いをもてなし、支え合うべきです。これらは、ヨハネがこの手紙の中で促した具体的な愛の表現です。

Bibliography

- Alexander, W. "The Third Epistle of John." In *The Speaker's Commentary: New Testament*. Edited by F. C. Cook. London: John Murray, 1881.
- Alford, Henry. *The Greek Testament*. 4 vols. New ed. Cambridge: Deighton, Bell, and Co., 1883, 1881, 1880, 1884.
- Allman, James E. "Suffering in the Non-Pauline Epistles." In *Why, O God? Suffering and Disability in the Bible and the Church*, pp. 195–205. Edited by Larry J. Waters and Roy B. Zuck. Wheaton: Crossway, 2011.
- Bailey, Mark L., and Thomas L. Constable. *The New Testament Explorer*. Nashville: Word Publishing Co., 1999. Reissued as *Nelson's New Testament Survey*. Nashville: Thomas Nelson Publishers, 1999.
- Barclay, William. *The Letters of John and Jude*. The Daily Study Bible series. 2nd ed. Edinburgh: Saint Andrew Press, 1962.
- Barker, Glenn W. "3 John." In *Hebrews–Revelation*. Vol. 12 of *The Expositor's Bible Commentary*. 12 vols. Edited by Frank E. Gaebelin and J. D. Douglas. Grand Rapids: Zondervan Publishing House, 1981.
- Baxter, J. Sidlow. *Explore the Book*. 1960. One vol. ed. Grand Rapids: Zondervan Publishing House, 1980.
- Blair, J. Allen. *The Epistles of John: Devotional Studies on Living Confidently*. Neptune, N.J.: Loizeaux Brothers, 1982.
- Bruce, F. F. *The Epistles of John*. London: Pickering & Inglis Ltd., 1970; reprint ed., Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 1986.
- Carson, Donald A., and Douglas J. Moo. *An Introduction to the New Testament*. 2nd ed. Grand Rapids: Zondervan, 2005.
- Darby, John Nelson. *Synopsis of the Books of the Bible*. 5 vols. Revised ed. New York: Loizeaux Brothers Publishers, 1942.
- Dodd, C. H. *The Johannine Epistles*. New York: Harper and Row, 1946.
- Ehrman, Bart D. *A Brief Introduction to the New Testament*. New York and Oxford, U.K.: Oxford University Press, 2004.

____. *The New Testament: A Historical Introduction to the Early Christian Writings*. 3rd ed. New York and Oxford, U.K.: Oxford University Press, 2000, 2004.

Findlay, George G. *Fellowship in the Life Eternal*. London: Hodder and Stoughton, 1909.

Fraser, Donald. *Synoptical Lectures on the Books of Holy Scripture, Romans–Revelation*. New York: Robert Carter & Brothers, 1876.

Funk, Robert W. "The Form and Structure of II and III John." *Journal of Biblical Literature* 86 (1967):424–30.

Gaebelein, Arno C. *The Annotated Bible*. 4 vols. Reprint ed. Chicago: Moody Press, and New York: Loizeaux Brothers, 1970.

Graystone, Kenneth. *The Johannine Epistles*. New Century Bible Commentary series. Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., and London: Marshall, Morgan & Scott, 1984.

A Greek–English Lexicon of the New Testament. By C. G. Wilke. Revised by C. L. Wilibald Grimm. Translated, revised and enlarged by Joseph Henry Thayer, 1889.

Guthrie, Donald. *New Testament Introduction: Hebrews to Revelation*. 2nd ed. reprinted. London: Tyndale Press, 1962, 1966.

Hanna, Kenneth G. *From Gospels to Glory: Exploring the New Testament*. Bloomington, Ind.: CrossBooks, 2014.

Harris, W. Hall. "A Theology of John's Writings." In *A Biblical Theology of the New Testament*, pp. 167–242. Edited by Roy B. Zuck. Chicago: Moody Press, 1994.

Henry, Matthew. *Commentary on the Whole Bible*. One volume ed. Edited by Leslie F. Church. Grand Rapids: Zondervan Publishing Co., 1961.

Hiebert, D. Edmond. "Studies in 3 John." *Bibliotheca Sacra* 144:573 (January–March 1987):53–65; 574 (April–June 1987):194–207; 575 (July–September 1987):293–304.

Hodges, Zane C. "3 John." In *The Bible Knowledge Commentary: New Testament*, pp. 911–15. Edited by John F. Walvoord and Roy B. Zuck. Wheaton: Scripture Press Publications, Victor Books, 1983.

____. *The Epistles of John: Walking in the Light of God's Love*. Irving, Tex.: Grace Evangelical Society, 1999.

____. "The Third Epistle of John." In *The Grace New Testament Commentary*, 2:1235–38. Edited by Robert N. Wilkin. 2 vols. Denton, Tex.: Grace Evangelical Society, 2010.

Jamieson, Robert; A. R. Fausset; and David Brown. *Commentary Practical and Explanatory on the Whole Bible*. Reprint ed. Grand Rapids: Zondervan Publishing House, 1961.

Kruse, Colin G. *The Letters of John*. The Pillar New Testament Commentary series. Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., and Leicester, Eng.: Apollos, 2000.

Ladd, George Eldon. *A Theology of the New Testament*. Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 1974, 1979.

Lange, John Peter, ed. *Commentary on the Holy Scripture*. 12 vols. Reprint ed. Grand Rapids: Zondervan Publishing House, 1960. Vol 12: *James–Revelation*, by J. P. Lange, J. J. Van Oosterzee, G. T. C. Fronmuller, and Karl Braune. Enlarged and edited by E. R. Craven. Translated by J. Isidor Mombert and Evelina Moore.

Lenski, Richard C. H. *The Interpretation of the Epistles of St. Peter, St. John and St. Jude*. 1945. Reprint ed. Minneapolis: Augsburg Publishing House, 1961.

Leonhard, Barbara. "Hospitality in Third John." *The Bible Today* 25:1 (January 1987):11–18.

Marshall, I. Howard. *The Epistles of John*. New International Commentary on the New Testament series. Reprint ed. Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 1984.

McGee, J. Vernon. *Thru the Bible with J. Vernon McGee*. 5 vols. Pasadena, Calif.: Thru The Bible Radio; and Nashville: Thomas Nelson, Inc., 1983.

McNeile, Alan Hugh. *An Introduction to the Study of the New Testament*. 2nd ed. revised by C. S. C. Williams. Oxford: Clarendon Press, 1927, 1953.

The New American Standard Bible. La Habra, Cal.: The Lockman Foundation, 2020.

Mitchell, John G. *Fellowship: Three Letters from John*. Portland: Multnomah Press, 1974.

Morgan, G. Campbell. *An Exposition of the Whole Bible*. Westwood, N.J.: Fleming H. Revell, 1959.

_____. *Living Messages of the Books of the Bible*. 2 vols. New York: Fleming H. Revell Co., 1912.

Motyer, Stephen. "The Third Epistle of John: The Cost of Walking in the Truth." *Evangel* 5:4 (Winter 1987):6–9.

Moulton, James Hope, and George Milligan. *The Vocabulary of the Greek Testament Illustrated from the Papyri and Other Non-Literary Sources*. 1930; reprint ed., Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 1974.

The Nelson Study Bible. Edited by Earl D. Radmacher. Nashville: Thomas Nelson Publishers, 1997.

Ogilvie, Lloyd John. *When God First Thought of You*. Waco: Word Books, 1978.

Pfeiffer, Robert H. *History of New Testament Times With an Introduction to the Apocrypha*. London: Adam and Charles Black, 1949, 1963.

Pond, Eugene. "3 John." In *Surveying Hebrews through Revelation*, pp. 113–17. 2nd ed. Edited by Paul D. Weaver. Learn the Word Bible Survey series. [Schroon Lake, N.Y.]: Learn the Word by Word of Life, 2019.

Richardson, Alan. *An Introduction to the Theology of the New Testament*. New York: Harper & Row, 1958.

Robertson, Archibald Thomas. *Word Pictures in the New Testament*. 6 vols. Nashville: Broadman Press, 1931.

Ryrie, Charles Caldwell. *Biblical Theology of the New Testament*. Chicago: Moody Press, 1959.

_____. "The Third Epistle of John." In *The Wycliffe Bible Commentary*, pp. 1483–85. Edited by Charles F. Pfeiffer and Everett F. Harrison. Chicago: Moody Press, 1962.

Schnackenburg, Rudolf. *The Johannine Epistles*. Translated from the 7th ed. of *Die Johannesbriefe* (1984) by Reginald and Ilse Fuller. New York: Crossroad Publishing Co., 1992.

Smalley, Stephen S. *1, 2, 3 John*. Word Biblical Commentary series. Waco: Word Books, 1984.

Smith, David. "The Epistles of St. John." In *The Expositor's Greek Testament*, 5 (1910):151–208. 4th ed. Edited by W. Robertson Nicoll. 5 vols. London: Hodder and Stoughton, 1900–12.

Stott, John R. W. *Basic Introduction to the New Testament*. 1st American ed. Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 1964.

_____. *The Epistle of John*. Tyndale New Testament Commentaries series. Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 1964.

Swindoll, Charles R. *The Swindoll Study Bible*. Carol Stream, Ill.: Tyndale House Publishers, 2017.

Tenney, Merrill C. *The New Testament: An Historical and Analytic Survey*. Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 1953, 1957.

Thiessen, Henry Clarence. *Introduction to the New Testament*. Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 1943, 1962.

Westcott, Brooke Foss. *The Epistles of St. John*. 1883. Reprint ed. England: Marcham Manor Press, 1966.

Wiersbe, Warren W. *The Bible Exposition Commentary*. 2 vols. Wheaton: Scripture Press Publications, Victor Books, 1989.

Wilkin, Robert N. "He Who Does Good Is of God (3 John 11)." *Grace Evangelical Society News* 5:9 (September 1990):2.

Wuest, Kenneth S. *Word Studies in the Greek New Testament*. Reprint ed. 16 vols. in 4. Grand Rapids: Wm. B. Eerdmans Publishing Company, 1966.

Yarbrough, Robert W. *1–3 John*. Baker Exegetical Commentary on the New Testament series. Grand Rapids: Baker Academic, 2008.

- [1] Donald A. Carson and Douglas J. Moo, *An Introduction to the New Testament*, pp. 670–75.
- [2] G. Campbell Morgan, *An Exposition of the Whole Bible*, p. 531, believed that this Gaius was the recipient of this letter.
- [3] Richard C. H. Lenski, *The Interpretation of the Epistles of St. Peter, St. John and St. Jude*, p. 577.
- [4] A. T. Robertson, *Word Pictures in the New Testament*, 6:259.
- [5] Stephen S. Smalley, *1, 2, 3 John*, p. 342.
- [6] Rudolf Schnachenburg, *The Johannine Epistles*, p. 290.
- [7] Robert W. Yarbrough, *1–3 John*, p. 363.
- [8] Charles C. Ryrie, “The Third Epistle of John,” in *The Wycliffe Bible Commentary*, p. 1483.
- [9] J. G. Mitchell, *Fellowship*, p. 176.
- [10] Adapted from G. Campbell Morgan, *Living Messages of the Books of the Bible*, 2:2:177–93.
- [11] Schnachenburg, p. 290.
- [12] Quotations from the English Bible in these notes are from the *New American Standard Bible* (NASB), 2020 edition, unless otherwise indicated.
- [13] D. Edmond Hiebert, “Studies in 3 John,” *Bibliotheca Sacra* 144:573 (January–March 1987):58.
- [14] J. H. Moulton and G. Milligan, *The Vocabulary of the Greek Testament Illustrated from the Papyri and Other Non-Literary Sources*, p. 120.
- [15] Zane C. Hodges, “3 John,” in *The Bible Knowledge Commentary: New Testament*, p. 912.
- [16] Matthew Henry, *Commentary on the Whole Bible*, p. 1965.
- [17] See Yarbrough, p. 367.
- [18] Henry, p. 1965.
- [19] David Smith, “The Epistles of St. John,” in *The Expositor’s Greek Testament*, 5:206, favored this view.
- [20] Lenski, p. 581.
- [21] Barbara Leonhard, “Hospitality in Third John,” *The Bible Today* 25:1 (January 1987):11. See G. G. Findlay, *Fellowship in the Life Eternal*, pp. 13–20, for clarification of hospitality in the early church.
- [22] Henry Alford, *The Greek Testament*, 4:2:524.
- [23] I. Howard Marshall, *The Epistles of John*, p. 86.
- [24] Donald Fraser, *Synoptical Lectures on the Books of Holy Scripture, Romans–Revelation*, p. 243.
- [25] B. F. Westcott, *The Epistles of St. John*, pp. 238–39.
- [26] J. Sidlow Baxter, *Explore the Book*, 6:332.
- [27] Findlay, pp. 18–19.
- [28] J. Vernon McGee, “The Third Epistle of John,” in *Thru the Bible with J. Vernon McGee*, 5:840.
- [29] Hiebert, 144:574:200.
- [30] Hodges, p. 913.
- [31] Warren W. Wiersbe, *The Bible Exposition Commentary*, 2:543.
- [32] Morgan, *An Exposition* ⋯, p. 531.
- [33] *Ibid.*
- [34] Wiersbe, 2:543.
- [35] Smith, 5:207.
- [36] Hiebert, 144:574:203.
- [37] Findlay, p. 8; Lenski, p. 585.
- [38] Westcott, p. 240.
- [39] Zane C. Hodges, *The Epistles* ⋯, p. 285. Cf. Col. 1:18.
- [40] James E. Allman, “Suffering in the Non-Pauline Epistles,” in *Why, O God? Suffering and Disability in the Bible and Church*, p. 201.
- [41] Hodges, “3 John,” p. 913. Cf. Wiersbe, 2:544.

[42]Robertson, 6:263.

[43]Schnachenburg, p. 297.

[44]E.g., Findlay, p. 41.

[45]Glenn W. Barker, "3 John," in *Hebrews-Revelation*, vol. 12 of *The Expositor's Bible Commentary*, p. 375.

[46]Smalley, p. 358.

[47]Zane C. Hodges, "The Third Epistle of John," in *The Grace New Testament Commentary*, 2:1237.

[48]*The Nelson Study Bible*, p. 2155.

[49]Robert N. Wilkin, "He Who Does Good Is of God (3 John 11)," *Grace Evangelical Society News* 5:9 (September 1990):2.

[50]Charles R. Swindoll, *The Swindoll Study Bible*, pp. 1627-28.

[51]Westcott, p. 241; Hodges, "3 John," p. 911.

[52]William Barclay, *The Letters of John and Jude*, p. 178.

[53]Findlay, p. 39.

[54]Barker, p. 376.

[55]Alford, 4:2:527.

[56]E.g., W. Alexander, "The Third Epistle of John," in *The Speaker's Commentary: New Testament*, 4:381; and Lloyd John Ogilvie, *When God First Thought of You*, pp. 201-6.